

前進へのスタート

東京あおぞら連絡会
理事長 吉川 方章

公害総行動千葉市・県への要請行動に参加した。千葉あおぞら連絡会の粘り強い取り組みをふまえ、友好的な対応であったが、内容的には前向きの回答はなかったように思う。

しかし、大気汚染とPM2.5、福島原発避難者訴訟、ミナマタ東京訴訟、首都圏アスベスト訴訟、地球温暖化と石炭火力発電問題など被害の実態と闘いの状況をつよく訴えた。

被害者・住民に寄り添う行政担当者の意識変革をせまるものであった。

埼玉の公害被害者が一同にあつまり交流会する初めてのつどいが開かれた。東京大気の埼玉在住2名の患者と石川さんが闘いの報告と被害の実態に触れ、各被害者・組織は共同と連帯でとりくみや運動を広げようとよびかけた。前進へのスタートとなったとおもう。

5月13日 千葉行動と埼玉交流会に参加して

水俣病東京支援連絡会
事務局長 土田 尚義

初めての行動(千葉)と交流会(埼玉)の参加だった。長い間千葉公害患者会が活動してきた歴史をベースにおいて考えないと千葉の到達点は理解できないと思う。千葉市と千葉県側の対応はその土台にそった対応だったと感じた。半面、公害問題は市や県レベルの対策は国の方針次第で独自ではどうにもならないという消極性も垣間見られた。チッソの新工場が建設され、多くの労働者が五井に移転してきたことを知らないことはないと思うが、承知しているとの返事がなかった。発言させてもらって良かった。

埼玉の被害者交流会はアスベスト、大気汚染、ミナマタ、フクシマの4被害者団体と弁護団・支援組織、公害総行動実行委員会を加え18名が参加。この人たちがこれから埼玉の中心になって運動を進めることに大いに期待できると感じた。

「公害被害者埼玉交流会」報告

東京公害患者と家族の会
副会長 石川 牧子

埼玉県内に「公害被害者」として裁判で闘っているアスベスト・水俣病・福島原発避難者がおられると聞き、私たち大気汚染公害被害者も含めて交流を持ってないものかと、約一年前から楽しみにしていました。やっと実現の運びとなりましたが、交流会は予想以上の内容になりました。

アスベスト原告団

埼玉土建の菊田さんが建設アスベスト訴訟原告は8年間で216名の原告が亡くなった。製造業のあけぼのブレーキ労働者、学校の先生からも被害者が出ている。

原告の高松さん「また一人仲間が亡くなった、生きているうちに解決してほしい」。

大阪さん「夫が亡くなって15年、息子も3年前に命を持って行かれた」「家族で同じ仕事をしていたので、私もいつ発病するかわからない。」

水俣原告団

東京支援連絡会の土田さんから、水俣病公式確認から60年たった今も、水俣病と新たに診断された人が提訴している。裁判傍聴をお願いしたい。

新潟水俣吉田さん「21歳で発病。手が震える、手足がしびれると医師に相談したら、てんかんの薬を処方された」。

東京原告の吉竹さん「ひざ下が感覚なく、骨まで見えるような怪我をしても気が付かないなどの体験がある」と耳を疑うような訴え。

東京大気汚染公害

石川から11年の裁判を経て東京都に医療費助成を実施させたが、昨年改正された。東京の患者だけではなく全国の患者の医療費救済を求めて運動している。

伊藤さん「ぜん息発作を繰り返し、薬(ステロイド)の副作用で骨粗鬆症になり車イス生活になった」。
松井さん「ぜん息薬の副作用で糖尿病になった。皮膚も薄くなり破けやすくなる」。

福島原発訴訟

完全賠償させる会代表佐藤三男さん、全国で31の訴訟団がある。2月11日21の原告団(原告9600人が結集)が6つの要求を統一した。原発労働者も提訴している。

埼玉訴訟原告河井さん「失った生活は元にもどらない。埼玉の原告も団結したいが、みな動かないどうしたら良いか？」支援者の北浦さん・森さん・湯沢さんも参加。

松浦弁護士「これまでの公害の判例から学ばせてもらいながら、裁判を闘いたい。」

まとめ

18名の参加でしたが、このくらい的人数だからこそ互いの苦しみを深く理解できた。この交流を出発点にして、何をめざすかこれからも交流を深めて行くことを確認。

南雲弁護士から、国や企業はこれまでの公害から何も学んでいないから、誤りを繰り返す。